

2020年1月1日

Value Management Innovation

株式会社ブイ・エム・アイ総研

## 「活・人・経・営<sup>®</sup>」コラム第78回

### ＜イノベーション創出のご支援＞

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

今年は2度目の東京オリンピックが開催される記念すべき年でもあり、飛躍の年にしたいものです。前回のオリンピックは昭和39年(1964年)でしたが、その反動もあり、翌年は不景気に突入し、40年不況とも呼ばれました。今度は二の舞を踏まないように今から準備をしておきたいものです。

企業経営におきましては、マクロ環境要因とされる政治(P)、経済(E)、社会(S)、技術(T)などの変化が最近世界的に著しく、事業環境もそれらの影響を受け、先行きの不透明感が増しています。このような時代、自ら変革を創造しなければならぬ時代に突入しているとも解釈できます。

企業が変革を成功させるためには二つのイノベーション創出がポイントになります。強靱な企業体質や体力を目指して、日々の改善活動などを切らさず継続して生まれる連続的イノベーションと、企業に存在している企業風土、文化、常識、ルール、組織の壁、人間関係や数々の成功体験に拘束されず、新たな製品(商品)やサービスなどを生み出す非連続的イノベーションです。

弊社はクライアントに於いて、イノベーションの創出を遮ってしまう課題・課題を顕在化し、企業価値向上を狙った改善・改革活動を支援させていただきます。特に人財の意識の変革や組織総合力の向上に焦点を当て、社内だけでは得にくい外部による客観性や知恵はイノベーション創出活動を推進するためのテコとしても大きく機能しております。

本年もどうぞご愛顧のほどよろしくお願い申し上げます。

### ＜非連続的イノベーションは経営を進化させる＞

時として、企業は今迄のやり方を大きく破壊して新しいコトやモノを創造する経営をしていかないと、時代の大きな変化に対応できず、生き残れない。人は成功体験にしがみつこうと傾向があり、一度握ったものを手放そうとせず、過去の延長線上で困難を乗り越えようとする。経営の流れにおいて、従来の延長線上とは異なるシンギュラーポイント(特異点)をつくらねばならない。

— 出典:「イノベーションが咲く＜活・人・経・営＞36の核心ポイント」

水野修 著 —